

青少年育成センターだより

第118号 2021.9.1

防府市教育委員会生涯学習課

青少年育成センター

0835-23-3013



2学期が始まり、朝から登校中の子どもたちの元気な声が聞こえてきています。子どもたちの元気で無邪気な姿を見ていると私たち大人のコロナで鬱積した気持ちも吹き飛ぶようです。今年の2学期は、コロナ禍でも運動会や文化祭、修学旅行が実施されるのでしょうか。2学期が、子どもたちにとって、充実した学期になりますように。「頑張れ、子どもたち!!」

オリンピック選手から学んだこと

7月23日に開会式が行われたオリンピックも終わり、今はパラリンピックの各競技が行われています。テレビの前で、手に汗を握って応援をされているのではないのでしょうか。オリンピックやパラリンピックに出場する選手たちの素晴らしい演技は、一朝一夕にできたものではありません。日々の過酷なトレーニングを経て、得られたものです。鍛えられた体と技術、そして勝利に向けて戦っている姿は見ている私たちに感動を与えてくれます。

今年は、コロナ禍でのオリンピックだったからでしょうか、これまでの大会以上に出場していた選手たちからいろいろな言葉が発信されました。

「人の2倍、3倍練習してきました。努力は裏切りませんでした」「今後も変わらない努力を続けもっと高みをめざしたい」「これまで支えてくれた人のために頑張ることができました」「諦めなければ夢はかないます」等、多くの名言が聞かれました。このような言葉は自然と出てきたものなのでしょう。出場までに多くの困難に出会い、そしてそれを乗り切った人の口から出た言葉は、私たちの心に響きます。これらの言葉は子どもたちにも聞かせたいものです。

目標を達成し、成果を出すために大切なものは何でしょうか。「努力」はとても必要なものですが、同様に必要なものは「感謝できる力（感謝力）」ではないのでしょうか。皆さんは、厳しい時、苦しい時にお父さんやお母さんの顔を思い出し、気持ちが楽になり乗り越えることができたという経験をされたことがあるのではないのでしょうか。今回のオリンピックの選手たちも苦しい練習を乗り越えていく過程で、両親、監督やコーチ、そして周りの人に感謝の気持ちを持つことで苦しさを乗り越えることができたからこそ、感謝の気持ちを言葉で表しました。

部活やスポーツ少年団でがんばっている子どもたちに、苦しさを乗り越え、成果を上げる方法として、支えてくれる人のことを考え、感謝する気持ちを持ち続けることだと教えてやって欲しいものです。

(文責＝青少年育成センター指導員 藤村)